



Title: 本日10時、今年最後のおはなし会

❖音楽の贈り物

20日の日曜日、大館市民文化会館主催事業「スタインウェイ・ピアノマラソン」のお手伝いに行ってきました。やっぱり現場は楽しいなあ。

ピアノマラソンは、小山実稚恵も上原彩子もダン・タイ・ソンも館野泉も佐藤卓史も（以下略）弾いた文化会館のピアノを、それなりの雰囲気ของ ステージで市民に（市民以外でもOKですが）気軽に弾いてもらおうと始められたもの。参加者の年代は幅広く、ジャンルはクラシックからポップス、自作曲まで、形態もソロに連弾、歌入り、他楽器との共演まで、さまざまです。もちろん演奏技術も様々。

私にとってこの催しの楽しみのひとつは、何度も出演しておなじみになった方々と再会できること。出演の皆さんも顔なじみの方と語り合っただけで楽しそうです。もうひとつの楽しみは、小さな子どもたちが半年、一年と成長していく姿を見られること。バイエルを弾いていたのが、いつのまにかショパンのマズルカをこなすようになったんだ。えらいねえ……と、親戚のおじさんみたいな感慨にふける自分がいます。その一方、ある程度の年齢になってからピアノを始めた人たち、および再開した人たちの奮闘や苦闘にも、心揺さぶられるものがあります。

さらにもうひとつ、時に曲の魅力を再発見させてくれるような演奏に出会うこともあるのです。今回はたとえば、鹿角市から参加のOさんの弾いたハイドンの「ピアノソナタ第59番変ホ長調」。ハイドンの作品番号に関してはいろいろ説明したい誘惑に駆られますが、字数に限りがあるので我慢して。若い頃聴いたハイドンの音楽（主に交響曲）は退屈な音楽に感じたものでしたが、最近耳にするハイドンは意外に表情豊かな演奏が多く、モーツァルトやベートーヴェンの先達というにふさわしく感じます（トシのせいかも知れません）。そんな印象を再認識させてくれる素敵な演奏を聴かせてくれたOさんに感謝です。

❖相互貸借を利用してみた

図書館間の資料の貸し借りを図書館用語で「相互貸借」と言います。利用者の望む資料が当館にない場合で、かつ購入が難しい場合、利用者の読みたい知りたい欲求を叶えるために相互貸借を行います。県内と北日本の、協定を結んでいる地域内の公共図書館間ではお互いに片道の経費を負担して、基本的に利用者には負担を求めないよう努めています。それ以外の地域の場合は片道運賃の負担をお願いしています。当館でもホームページ開設以来貸し出しが増えており、結構予算を圧迫していますが、ほぼ借りる一方だった以前を思えば文句は言えません。

私自身は、市内図書館に所蔵のない資料についてはなるべく県立図書館の郵送サービスを利用します。これだと市立図書館に負担をかけないので。それはともかく、どうしても読みたい本が書店等では入手困難だったり県立にもない場合、しょうがないので相互貸借をお願いします。

というわけで、前回の当欄で紹介した『世界の辺境とハードボイルド室町時代』に取り上げられていた中世史学者・勝俣鎮夫の一書を、県立に（県内にも）なかったので相互貸借をお願いしました。担当が探して取り寄せてくれたのは、札幌市中央図書

館の蔵書でした。うわ、懐かしい。3年前の11月に爆弾低気圧で猛吹雪の中、幅の狭い札幌市電に乗って行った藻岩山麓の大きな図書館じゃありませんか。あの日はいろんなことがあったなあ、とつい感慨にふけてしまいました。

❀年内、あと3日間です

市立図書館の年内の開館日はあと3日。28日から1月4日まで、通常の休館日をはさんで年末年始休館に入ります。

本日25日は、中央図書館で今年最後のおはなし会「冬休みワクワクドキドキおはなし会」を開催します。10時から11時まで。読みきかせグループ「おはなしの森」の皆さん、力入ってます。お子様連れでお越しください。

貸出冊数倍増期間もあと3日、27日までです。図書・雑誌10冊、紙芝居も10巻まで借りられます。貸出期間も3週間に延長しています。相互貸借は通常どおりの冊数・期間ですが。

来年早々のイベントは、1月8日（金）10時から「高校生の読み聞かせ会」。高校生のお姉さんお兄さんたちが待ってます。

ということでまた来年、皆さまどうぞ良いお年を。 （陽）